

2022年5月8日 大井バプテスト教会 礼拝説教

説教題「同じ出来事、違う景色」マルコによる福音書8章14～21節 広木 愛

『14:弟子たちはパンを持って来るのを忘れ、舟の中には一つのパンしか持ち合わせていなかった。15: そのとき、イエスは、「ファリサイ派の人々のパン種とヘロデのパン種によく気をつけなさい」と戒められた。16: 弟子たちは、これは自分たちがパンを持っていないからなのだ、と論じ合っていた。17: イエスはそれに気づいて言われた。「なぜ、パンを持っていないことで議論するのか。まだ、分からないのか。悟らないのか。心がかたくなになっているのか。18: 目があっても見えないのか。耳があっても聞こえないのか。覚えていないのか。19: わたしが五千人に五つのパンを裂いたとき、集めたパンの屑でいっぱいになった籠は、幾つあったか。」弟子たちは、「十二です」と言った。20: 「七つのパンを四千人に裂いたときには、集めたパンの屑でいっぱいになった籠は、幾つあったか。」「七つです」と言うと、21: イエスは、「まだ悟らないのか」と言われた。』 マルコ8・14～21

福音書を読み進めていると、同じ内容なのだろうけれども若干違う物語が掲載されています。小さい頃は似た話は何個もあって、十字架に何回かかっているのかなあくらいに思っていました。聖書を勉強する中で、この聖書がどのように作られてきたのかを知り、小さいころに思っていた、とんでもない仮説は簡単に覆されていきました。

福音書は、回覧されていたルーズリーフのようなイエスさまの出来事メモとイエスさまの人生ってこんな感じだったという言い伝えをもとに、福音書記者の人たちがそれぞれに伝えられている情報を元に一冊にまとめられていった。だから微妙に異なっている福音書、それが複数できたということ。4つを比べてみると、福音書記者がいた礼拝共同体、今のわたしたちの教会・・・とも言い換えていいのかもしれませんが、その人たちが何を大切に、イエスさまの物語を伝えていたのかがわかるのだそうです。

聖書の中で、複数の福音書が取り上げているのに、なぜか少し物語の詳細が異なっているものがあることに気が付かされます。特に聖書日課を順番に読んでいると、続けて福音書を読み進めるわけですから、違いを感じるすることができます。福音書記者と一緒に礼拝をしていた人たちが何を大切にしているかによって、伝言ゲームのようにイエスさまの物語を語り伝えるときに、その人の興味関心によって、強調点が変わっていったのだと思います。

教会で年間主題を設定する意味は、この福音書記者が、伝言ゲームのようにして、自分たちに伝えられたイエスさまの物語と手元にあるイエスさまの言葉が記された小さなメモをまとめていく作業に似ているかなあと思います。

大井教会が置かれたこの地域で、イエスさまの物語を読んで、自分たちのまわりで起きていることにピッタリくる順番で、イエスさまの物語をまとめていく。執行委員会で話し合われて、来週の総会で出される予定の主題テーマ「再構築、リストラクション～希望は欺かない～」。教会のことを意識して出てきた言葉でもあります。きっと礼拝から私たちが送り出される私たちの日常にも置き換えられるのではないのでしょうか。

IT の波が押し寄せる中で、持続可能な開発目標、SDG s を世界の人たちと一緒に設定し、「誰一人取り残されない」世界、生活を作っていくという流れが出てきています。わざわざ SDG s と目標を掲げなければならないほど、私たちの日常が多様化し、これまでの私たちの「当たりまえ」が大きく変化しているのだらうと思います。今年度の教会のテーマ、「再構築」の視点は、私たちの生活の中にも関係してくるテーマになっていくのだらうと想像します。

私たちの周りにある様々な出来事。それを共有することは簡単になりました。そのニュースを見て、どのように感じるか、そのニュースから感じる社会の問題点は、一人一人違うように、私たちの日常でおこるさまざまな出来事をどのように切り取り、どのように捉えるのかは人それぞれです。私たちがみんな同じ感性を持っていないことのメリットは、ここにあると思っています。教会や教会の周り、そして、私たちの毎日の中にある出来事をどのように切り取っていくのか、分かち合い、お互いの景色を広げていくことができる共同体が、わたしたち与えられている教会なのだらうと思います。

弟子たちは、手元にパンが一つしかないことに動揺しました。でも、イエスさまがみて欲しかったのは、5000人以上で一緒に食事をした時、その必要が満たされたという神さまの業。目の前で起こっていることをどのように理解していくのか、イエスさまの目に映る景色は、どんなものだったのか、パンが足りない・・・ことではなく、神が、必要を満たしてくださる方であること。そのことを覚えていきたいなあと思います。私たちは、同じ聖書を読みながらも、それぞれが神さまのメッセージをいただきます。聖書から見えるそれぞれのちよつとずつ・・・か、とっても違う景色を、分かち合いながら、今私たちがおかれている現実の中で、神さまに私たち自身も、社会も、そして教会も、再構築されていきましょう。